Vol.14. 2024.11

# 順天堂大学練馬病院外科だより

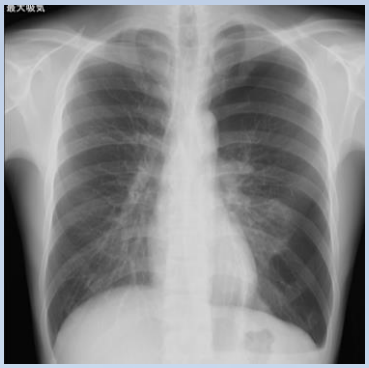
## 呼吸器外科：胸腔ドレナージを伴わない自然気胸診療戦略

自然気胸は若年男性に好発し、胸部外科としてはありふれた疾患です．生命予後は良好ですがII°気胸（中等度虚脱）以上の場合，入院で胸腔ドレナージを施行し,エアリークの停止が得られない場合は手術，というのが通常の戦略となります．

一方で胸腔ドレナージは疼痛も強く入院が必要であり，一度経験された患者さんは，再度気胸を発症した際に「胸にチューブを入れるのだけは嫌だ」と発言されるのをしばしば耳にしてきました．またドレナージの穴は必ずしも手術の際に使用できる訳ではなく，余計な創が増え，瘻孔が故に治癒しにくいこともあります．

これまで700例の気胸症例を経験してきましたが，若年者では受診時に呼吸不全を認めたことはほぼ皆無であり，III°気胸（完全虚脱）の状態でさえ，歩いて受診する症例も経験します．血胸膿胸の合併がなければ「若年者は肺が虚脱していてもバイタルサインはほぼ安定している」との結論に至りました．

この経験から，当院では若年者の気胸では原則「穿刺脱気を第一選択」とし5日（平均）を過ぎても改善しない場合に「胸腔ドレナージを行わずに手術」としています．治療戦略の一つとして患者さんに御呈示いただけますと幸いです．



22歳、左II°気胸
バイタル安定　血胸なし

↓

外来で脱気（2～3回/5日）

↓ 治癒　↓ 手術

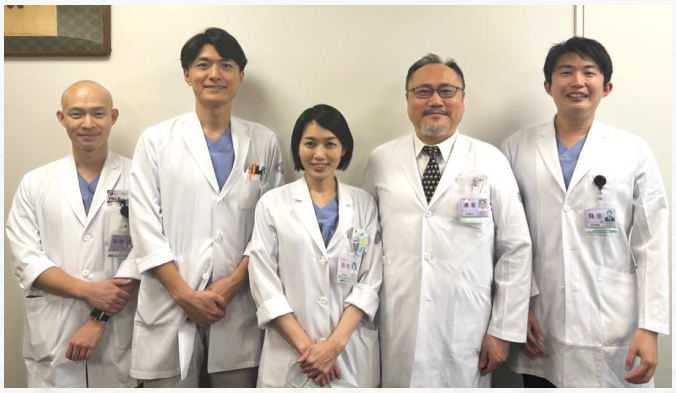
↓

術後2日で退院

呼吸器外科科長　阪野孝充

## 小児外科：病気の子供に寄り添える医師めざし

小児外科・外科専攻医の飛田壮貴と申します．私が医師を目指したのは物心ついた頃からでした．幼い頃に心臓病を患い，中学生になるまで病院に通っていました．当時の担当医に憧れを抱き医療の道を志し，病気の子供に寄り添えるような医師になりたいと思い小児外科に進みました．



当科は練馬区で唯一の小児外科施設であり，低侵襲で安全な治療を提供できるよう努めております．年間の入院患者数は約400人で，350例以上の手術を行っています．臍ヘルニアの綿球療法，包茎の軟膏療法，漏斗胸のバキュームベル矯正など“切らない治療”を第一優先とし，改善しないものだけ手術を行っています．鼠径ヘルニアの腹腔鏡手術（LPEC法），膀胱尿管逆流症の膀胱鏡下逆流防止術（STING法），虫垂炎の腹腔鏡下虫垂切除術に加え，胆道拡張症や腎盂尿管移行部狭窄症に対してはダビンチによるロボット支援下手術も導入し，低侵襲で合併症の少ない，安全・安心な医療を心がけています．ご紹介，お問い合わせをお待ちしております．

小児外科　飛田壮貴



受診希望の際は予約センター（03-5923-3240）までお電話下さい。